

平成28年度 事業報告

自 平成28年 4月 1日

至 平成29年 3月31日

一般財団法人 MOA健康科学センター

I 法人の概況

1. 役員に関する事項

役員一覧

(平成29年3月31日現在)

役職	氏名	勤務先/役職
理事長	鈴木 清志	医療法人財団玉川会 理事長
専務理事	八木澤幸生	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局長
常務理事	片村 宏	医療法人財団玉川会MOA新高輪クリニック 院長
〃	佐久間哲也	医療法人財団玉川会MOA奥熱海クリニック 院長
理事	渡瀬 信之	東海大学 名誉教授
〃	陽 捷行	公益財団法人農業・環境・健康研究所 副理事長
〃	松尾 汎	医療法人松尾クリニック 理事長
〃	宇田川和也	宇田川和也法律事務所 所長
〃	立川 豊吏	医療法人財団愛和会 理事長
〃	小坂 昇	東方之光 理事長
〃	中島 宏平	東方之光 理事
〃	葛原 俊作	東方之光 理事
業務執行理事	木村 友昭	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
〃	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
監事	岡崎 譲治	株式会社エム・オー・エー商事 取締役
〃	石原 義之	東方之光業務委員会 委員長

計16名 (理事/14名 監事/2名)

2. 評議員に関する事項

評議員一覧

(平成29年3月31日現在)

氏名	勤務先／役職
長南 征二	東北大学 名誉教授
森岡 尚夫	医療法人財団玉川会 理事
蝦名 玄大	医療法人財団瑞泉会 理事
横山 茂弘	東方之光 理事
水野 昌司	一般社団法人MOA自然農法文化事業団 理事
小菅 豊弘	MOAインターナショナル自然食運動推進本部事務局課長
笹岡 勝利	MOAインターナショナル MOA TOKYO 地区長
坂本 和豊	公益財団法人岡田茂吉美術文化財団 関東地区統括マネージャー
大門 一樹	東方之光国際委員会 事務局長

計9名

3. 顧問に関する事項

顧問一覧

(平成29年3月31日現在)

役職名	氏名	職業等
顧問	新田 和男	医療法人財団玉川会 常務理事
同	菅野 久信	産業医科大学 名誉教授
同	チャクリット・ プーミサワット	元タイ国衛生省事務次官室監査委員会 監査官
同	牧 美輝	医療法人財団光輪会 理事長
同	山岡 淳	日本大学 名誉教授
同	マーティン・ パーマー	国際宗教・教育・文化研究所（ICOREC）所長

計6名

4. 事務局員に関する事項

事務局員一覧

(平成29年3月31日現在)

事務局長	八木澤幸生
事務局次長	利見 晃二
事業推進課 課長	畠中 幸造
事業推進課 担当課長	坂口 弘征
総務管理課 課長	柴田 和廣
総務管理課	亀石 佳典

計6名

5. 研究スタッフに関する事項

研究スタッフ一覧

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

研究部長	新田 和男 (医師、医学博士)
研究顧問	菅野 久信 (医学博士)
〃	山岡 淳 (文学博士)
研究部次長 主任研究員	木村 友昭 (博士 (医学))
〃	内田 誠也 (博士 (工学))
研究員	加藤孝太郎 (博士 (農学))
〃	坂口 弘征
〃	田中 英明 (博士 (公衆衛生学))
客員研究員	津田 康民 (博士 (理学))
〃	深澤 大輔 (鍼灸指圧師)
〃	久住 喜春 (鍼灸指圧師)
〃	富嶋 謙之 (准看護師、メンタルヘルス心理カウンセラー)
研究補助員	浦田 昌志
〃	高場 政美
〃	木村 幸一
〃	尾花 杉宏
〃	谷川 昇
〃	岡田 雄太

計 18 名

6. 研究推進委員会および治験審査委員会に関する事項

28年度委員一覧

役職	氏名	勤務先／役職
委員長	鈴木 清志	医療法人財団玉川会 理事長
副委員長	長南 征二	東北大学 名誉教授
委員	木嶋 利男	公益財団法人農業・環境・健康研究所 代表理事
〃	松尾 汎	医療法人松尾クリニック 理事長
〃	森岡 尚夫	医療法人財団玉川会 理事
〃	柳川 勉	NTTエレクトロニクス株式会社 品質管理部門長
〃	立川 豊吏	医療法人財団愛和会 理事長
〃	山根 健治	宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センター センター長
〃	杉岡 良彦	医療法人耕仁会札幌太田病院 医師
〃	柴 維彦	医療法人財団玉川会MOA名古屋クリニック 院長
〃	中島 宏平	東方之光 理事
〃	田淵 浩康	公益財団法人農業・環境・健康研究所 業務執行理事
〃	矢代 勝也	公益財団法人岡田茂吉美術文化財団 理事
〃	八木澤幸生	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局長
〃	木村 友昭	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
〃	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長

計16名

7. 編集委員会に関する事項

28年度委員一覧

役職	氏名	勤務先／役職
顧問	新田 和男	医療法人財団玉川会 常務理事
委員長	片村 宏	医療法人財団玉川会 理事
副委員長	畠中 幸造	一般財団法人MOA健康科学センター 事業推進課課長
委員	八木澤幸生	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局長
〃	木村 友昭	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長

計5名

8. 倫理審査委員会（利益相反管理委員会兼任）に関する事項

28年度（平成29年3月31日現在）委員一覧

役職	氏名	勤務先／役職
顧問	新田 和男	医療法人財団玉川会常務理事（医学博士）
〃	山岡 淳	日本大学名誉教授（文学博士）
〃	牧 美輝	医療法人財団光輪会理事長（医学博士）
〃	入江 光生	東方之光相談役
		（医学・医療の専門家、自然科学の有識者）
委員長	片村 宏	医療法人財団玉川会 理事（医学博士、医師）
委員	蝦名 玄大	医療法人財団瑞泉会理事（医師）
〃	有馬佐和子	医療法人財団玉川会MOA新高輪クリニック（看護師）
〃	木村 友昭	一般財団法人MOA健康科学センター理事（博士（医学））
〃	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター理事（博士（工学））
〃	田中 英明	一般財団法人MOA健康科学センター（博士（公衆衛生学））
		（倫理学・法律学の専門家、人文・社会科学の有識者）
副委員長	宇田川和也	宇田川和也法律事務所所長（弁護士）
委員	杉浦 恒夫	東方之光人権委員会事務局次長
〃	西 一嘉	翻訳家（博士（社会学））
〃	小野 努	東方之光教学祭事プロジェクト事務局
		（一般の立場）
委員	豊田 益代	主婦（管理栄養士）
〃	田中千枝子	東京療院（心理士、カウンセラー）
〃	三井 淳子	主婦（工学修士）
〃	畠中 幸造	一般財団法人MOA健康科学センター事業推進課課長
〃	坂口 弘征	医療法人財団玉川会事務長

計19名

9. 理事会に関する事項

開催日	主な審議事項
平成28年5月28日 理事会	平成27年度事業報告、平成27年度決算報告並びに平成27年度公益目的支出計画実施報告、定時評議員会招集及び提出議案に関する件
平成28年6月18日 理事会 (みなし決議)	代表理事、役付理事及び業務執行理事の選定の件、理事への使用人職務の委嘱の件
平成29年3月18日 理事会	平成29年度事業計画案、平成29年度予算案、就業規則等の一部変更、平成29年度顧問及び各委員会委員の委嘱、第27回(平成29年度)研究助成申請に関する審査結果、研究推進委員会規程の一部変更に関する件

10. 評議員会に関する事項

開催日	主な審議事項
平成28年6月18日 定時評議員会	評議員任期満了に伴う選任の件、理事・監事任期満了に伴う選任の件、平成27年度計算書類等の承認、平成27年度事業報告の内容報告、平成27年度公益目的支出計画実施報告に関する件

II 事業の概要

1. 総括

一般財団法人として5年目を迎えた平成28年度は、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」に則った理事会、評議員会の開催や法人運営を進め、定款に定める目的に沿った事業に取り組むと共に運営基盤の充実に努めた。

本年度の事業としては「自然治癒力を生かす医学及び健康法」の普及を進める観点から、その研究体制の充実を図りつつ、協力機関・団体と連携して、全人的医療や統合医療および農医連携に関する研究や調査活動ならびに情報提供を進め、家庭や地域社会における健康づくりの推進に取り組んできた。

具体的には、全人的医療や統合医療で取り組まれている心身の健康法の中でも、とくに岡田式浄化療法をはじめとした岡田式健康法について、(一社)MOAインターナショナルや各医療機関と協力して調査・研究を実施し、その成果を社会に公表した。また倫理審査委員会の開催、研究推進委員会を軸とした研究助成および自主研究に取り組む中で、研究の推進を図り、国内外の学会での発表や学術誌での公表など積極的に取り組んだ。本年度は国際学会4題、国内学会8題の発表、研究報告集6題の公表をすることが出来た。

さらに、(一社)MOAインターナショナルと共催し、「これからの医療とまちづくり」をテーマにしたシンポジウム、第8回岡田式健康法研究会(金沢市)等の講演会や各地でのセミナーを開催することで、全人的医療や統合医療および農医連携に関しての調査・研究の推進を図り、その研究成果を地域社会と国際社会に発信することに努めてきた。

このような研究活動や広報活動に併せて、国民の健康づくり運動「健康日本21」の推進を願い、健康度測定を90か所で約3,352名に実施し、一人一人の生活習慣の改善を支援するとともに、健康づくりに関する意識の向上を図ってきた。

以下、平成28年度事業計画に基づき、事業活動の概要を報告する。

2. 調査・研究事業

(1) 研究体制の充実

① 研究推進委員会の開催

平成29年1月28日に研究推進委員会を開催した。平成29年度研究助成(申請2件)について審議し、「否」の審査結果となった。

また今後の研究のあり方と方向性の検討を進め、二つの小委員会(外部連携小委員会、内部研究小委員会)を設置し、研究の推進を図る体制を充実にしていくことが確認された。

② 倫理審査委員会の開催ならびに利益相反管理委員会

倫理審査委員会では、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づく運用を

基に委員会を開催（6回）し、研究計画に対して通常審査6件、迅速審査5件をした。

また、利益相反管理委員会では、役員や研究責任者のCOI管理を適宜実施した。

③（一社）MOAインターナショナル、新田記念統合医学研究所等との連携

MOAインターナショナルおよび新田記念統合医学研究所と連携して、健康問題を解決する新しい医学の構築に貢献することをめざして、調査・研究や人材交流等を進めてきた。

（2）自然治癒力を生かす医学及び健康法の調査・研究

① 協力機関・団体との医学及び健康法の調査・研究

協力医療機関や関連団体と連携し、自然順応型の健康法の調査・研究と併せて、全人的医療や統合医療ならびに農医連携に関する調査・研究を進めてきた。

1) 行政との連携による調査・研究

鳥取県南部町が主催する統合医療推進事業のエネルギー療法教室において、岡田式浄化療法の調査・研究を実施し、広島療院等とともに町民の健康増進の取り組みに協力をした。

2) 協力医療機関との調査・研究

（医財）玉川会、光輪会、瑞泉会、愛和会のクリニックをはじめとした医療機関と連携し、自然治癒力を生かす医学及び健康法について調査・研究を進めた。

また、下記の全国調査・多施設研究について各医療機関と連携して取り組んだ。

a. MOA高輪クリニック 鈴木清志（院長・本財団理事長）

「ガン患者に対する岡田式健康法の効果の研究」

3)（公財）岡田茂吉美術文化財団との調査・研究

岡田茂吉美術文化財団と連携し、MOA美術館・箱根美術館に於いて、岡田式健康法における美術文化法や芸術が心身の健康に及ぼす影響に関して調査・研究を積み上げてきた。

4)（公財）農業・環境・健康研究所との調査・研究

農業・環境・健康研究所と連携し、永続可能な農業の心身への影響や農医連携について調査・研究・教育の実施企画を進めた。そして農業大学校における教育指導・人材育成に取り組んだ。

5) 統合医療に関する国際調査

日本統合医療学会と連携して統合医療に関する国際調査を実施し、14か国643件のデータの収集および解析を行った。この結果については、国際学会等で報告を行った。

6) 大学との連携による調査・研究

a. 日本大学国際関係学部の伊坂准教授らと協同し、スピリチュアリティの評価に関する研究を行った。

b. 日本大学芸術学部の松本教授と共同し、癒しの評価に関する研究を行った。

c. 広島大学医学部の烏帽子田教授、および長崎県立大学の林田准教授らと協働し、高齢者の通所介護事業や発達障害支援事業に関する研究を行った。

② 自主研究を軸とした医学及び健康法の調査・研究

本財団における自主研究として、岡田式健康法をはじめとした各種健康法が心身の健康及ぼす影響について研究を行った。

具体的には、岡田式浄化療法、芸術（花、茶の湯、音楽、絵画等）、自然食、運動などの心身の健康への効果に関して、QOLやストレス度、スピリチュアリティ等の測定による疫学的研究、また脳波、脳血流、自律神経機能、体表面温度等の測定による生理心理学的研究や筋硬度等の測定による健康評価に関する研究、岡田式健康法の実践者と一般生活者との腸内細菌叢の比較研究などに取り組んできた。

これらの研究成果については各学会に発表するとともに、会員誌やホームページ、冊子などで公表した。

③ 研究協力協定

以下の機関と研究協力協定を結んでいる。

- 1) コンゴ民主共和国国立健康科学研究所との研究協力
- 2) タイ・ダムナンサドゥアック市立病院との研究協力

3. 研究成果の公表

(1) 第8回岡田式健康法研究会の開催（新田記念統合医学研究所との共催）

① 開催日：平成28年10月16日、ホテル日航金沢（参加者：250名）

② 内 容：特別セッション、研究報告とディスカッション

1) 第一部 特別セッション（健康長寿社会のための看護・保健師の役割）

a. 川嶋みどり（日本赤十字看護大学名誉教授）

「求められる発想—一人々の暮らしに目を向けた看護」

b. 猪股千代子（札幌市立大学看護学部教授）

「統合医療看護の探求—こころ・体・霊性を調え癒すケアの実践・教育研究からの学び」

c. 緒方昭子（森ノ宮医療大学保健医療学部准教授）

「健康長寿社会のための看護師・保健師の役割～看護教育における触れるケアの取り組みから～」

d. 有馬佐和子（MOA新高輪クリニック看護師チーフ）

「統合医療モデル施設 療院における看護覚え書の活用」

2) 第二部研究報告

a. 片村 宏（MOA新高輪クリニック院長・本財団常務理事）

「肩部の皮膚導電性と筋硬度への岡田式浄化療法の効果—第2報—
～良導絡測定システムを用いた二重盲検自己対照比較実験～」

b. 佐久間哲也（MOA奥熱海クリニック院長・本財団常務理事）

「自治体と取り組む統合ケアの実際」

- c. 森岡尚夫（金沢クリニック院長）
「高尿酸血症患者に対する岡田式健康法の効果」
- d. 蝦名玄大（瑞泉会宮城クリニック院長）
「統合医療MOAモデルの検討」
- e. 柴 維彦（MOAかがわ健康増進センター医師）
「限界集落において統合医療チームによる共助が有用であった2症例」
- f. 江副健一（光輪会鹿児島クリニック看護師）
「患者のスピリチュアリティに寄り添う～患者満足度評価への試み～」

(2) 学会発表

① 国際学会での発表

- 1) International Conference for Complementary Medicine Research (ICCMR: 第11回世界補完統合医療学会)

発表者：鈴木清志（本財団理事長）

演題：「Effectiveness of Biofield Therapy for Patients with Fibromyalgia in Portugal:ポルトガルの線維筋痛症患者に対する生体エネルギー療法の効果」

- 2) International Society of Quality of Life (ISOQOL: 国際QOL学会)

発表者：木村友昭（本財団理事・主任研究員）

演題：「Comparing generic quality of life and spiritual attitudes in Japanese smokers and non-smokers:喫煙者と非喫煙者における包括的な生活の質(QOL)および精神的態度の比較」

- 3) American Public Health Association (APHA: アメリカ公衆衛生協会)

発表者：田中英明（本財団研究員）

演題：「Intercountry comparison on the use and understanding of the concept of integrative medicine:統合医療の知識、利用状況、そして概念に対する理解の国別比較」

「Comparison in the understanding of the concepts of integrative medicine across occupations:統合医療の概念に対する理解の職業別比較」

② 国内学会での発表

- 1) 日本生理心理学会第34回大会

発表者：内田誠也（本財団理事・主任研究員）

演題：「花による心身の癒しーストレスと自律神経、肩こり度との関連についてー」

- 2) 日本応用心理学会第82回大会

発表者：内田誠也（本財団理事・主任研究員）

演題：「花および写真の鑑賞による心身の癒しー癒しの嗜好と心理生理学パラメータとの比較ー」

発表者：木村友昭（本財団理事・主任研究員）

演題：ワークショップ

「植物の癒し効果を評価する：農業、医療、そして応用心理学からのアプローチ」

3) 日本健康心理学会第29回大会

発表者：内田誠也（本財団理事・主任研究員）

演題：「日芸版「癒し」評価スケールを用いた花の癒しの評価—疾病の有無による違い」

4) 日本スピリチュアルケア学会第9回学術大会

発表者：鈴木清志（本財団理事長）

演題：「国際アンケート調査から見た日本のスピリチュアルケアの現状」

5) 第22回日本臨床死生学会大会

発表者：鈴木清志（本財団理事長）

演題：「国際アンケート調査から見た日本のスピリチュアルケアと統合医療」

6) 第20回日本統合医療学会

a. 発表者：片村 宏（MOA新高輪クリニック院長・本財団常務理事）

演題：「肩部の皮膚導電性と筋硬度への岡田式浄化療法の効果」

b. 発表者：森岡尚夫（金沢クリニック院長・本財団評議員）

演題：「脂質異常症およびその予備軍に対する岡田式健康法に効果に関する研究」

*研究協力者（機関）による発表（1題）

a. 発表者：黒澤由貴子（金沢クリニック看護師）

演題：「統合医療施設療院における看護の役割」

(3) 論文による公表

調査・研究等で得られた成果については、学術論文として「研究報告集」にとりまとめ、文献データベースに登録するとともに公表につとめた。

① 研究報告集第20巻

編集委員会を開催し、研究報告集第20巻を発刊した。本巻の掲載論文は6報で、うち「原著」1報、「研究報告」2報、「資料」1報、「転載」2報であった。

1) 原著

a. 「大学生および社会人における抑うつ症状とスピリチュアルな態度との関連」

木村友昭、佐久間哲也、伊坂裕子、鈴木直人、牧美輝、烏帽子田彰、内田誠也、山岡淳

2) 研究報告

a. 「複合コミュニケーションとしてのエネルギー療法 ※2014年度研究助成報告として」
的場主真

b. 「肥満患者の体重コントロールに対する岡田式健康法の効果」

森岡尚夫、中西好子、黒澤由貴子、玉村圭子、三宅真矢、伊藤宗晴

3) 資料

- a. 「岡田式浄化療法と、運動療法の併用が肩の筋硬度に及ぼす影響」
内田誠也、岡田雄太、山岡淳

4) 転載

- a. 「コミュニティと連携した英国と日本の統合医療モデル」
鈴木清志
- b. 「異なる生活環境集団における保育園児の食習慣とアトピー性皮膚炎との関係」
眞弓明子、中川祥治、田淵浩康、木村友昭、太田正保

4. シンポジウムの開催

(1) これからの医療とまちづくりシンポジウム (MOA インターナショナルとの共催)

- ① 日 時：平成28年10月15日 金沢市 本多の森ホール
- ② 後 援：厚生労働省、消費者庁、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、
環境省、総務省、石川県、金沢市、北國新聞社
- ③ 参加者：5,000名 (映像配信含)
- ④ 内 容：主催者挨拶 森 富士夫 (MOAインターナショナル理事長)
来賓挨拶 竹中博康 (石川県副知事)
発表者 伊藤壽記 (大阪大学大学院教授、日本統合医療学会執行理事)
坂本昭文 (鳥取県南部町長)
カール・ベッカー (京都大学大学院教授)
鈴木清志 (一般財団法人MOA健康科学センター理事長) 司会含
指定発言 浅川正人 (静岡県掛川市副市長)

5. 地域社会における健康づくりの推進

地域社会における健康づくりを進めるとともに「健康日本21」運動の推進を願って、全国各地の瑞泉郷まつり等の健康関連行事において、健康科学セミナーや血管年齢、肩こり度、ストレス度等の健康度測定を行った。聴講者や体験者からは、健康づくりにとても参考になったという声が多く、生活習慣の改善に向けて意識の転換を図ることができた。

(1) 健康科学セミナー

伊豆の国市、箱根町等、全国98か所で健康科学セミナーを実施し、4,517名が聴講した。

(2) 健康度測定

箱根町、大阪市等、全国90か所で健康度測定を実施し、3,352名が体験した。

(3) 機器の貸出しによる健康度測定

MOAの現地チームや健康生活ネットワークより、健康度測定の機器の貸出しの依頼があり、測定者の育成を図るとともに、15か所に貸出し、健康関連行事等で測定を実施した。

6. 人材の掌握と育成

新田記念統合医学研究所をはじめとする協力団体や医療法人等と協力し、全人的医療や統合医療を軸に地域包括ケアを推進する人材や、家庭や地域社会における健康づくりや健康な町づくりを推進する人材の掌握と育成に取り組んだ。

(1) 医師、看護師等の掌握と育成

新田記念統合医学研究所と連携し、その協力医師や関連の看護師等と交流し、研究協力などに取り組み掌握と育成に努めた。

(2) 作業療法士、理学療法士、栄養士、音楽療法士、鍼灸師等の掌握と育成

関連協力団体等と連携して、地域社会における健康づくりや研究事業の推進のために医療関係者の掌握と育成に努めた。

7. 広報活動と情報公開

調査・研究等で得られた成果や財団の行う事業・活動を分かりやすく社会に紹介するために、機関誌の発刊、またホームページ等によって情報の公開に努めた。

(1) 機関誌「21世紀の健康科学」の発行

機関誌「21世紀の健康科学」について第53号（平成28年7月15日）、第54号（平成28年12月15日）を発行し、賛助会員・団体に情報の提供を行った。

(2) ホームページ等における情報の公開

一般市民への情報提供の充実を図るべく、本財団の事業・活動に関する情報、健康に関連する情報や研究成果、普及広報活動の情報発信に取り組んだ。

また、英文のホームページの作成にも取り組んでいる。

8. 事業基盤の充実

(1) 賛助会員の拡大

賛助会員登録数は、個人会員2,588名、団体会員16団体（平成29年3月末現在）である。近年は自然減等に伴う会員数の減少幅が大きいの傾向にあるので、賛助会員の申込み用紙や案内チラシ等を改善すると共に健康度測定等のサービスに取り組み、セミナー等において積極的に賛助会員入会の案内を進め、新規に会員120名を得ることが出来た。

(2) 寄付金

地域の健康づくり事業でのセミナーや健康度測定、シンポジウムや講演会、ホームページ等を通して研究成果を広く伝え、統合医療の有効性を訴えていくことにより、財団運営・活動へのご支援を積極的にお願ひしてきた。本年度は、賛助会員や関係者の方々また各団体をはじめ一般の方々から、年間で約4,100万円の真心こもる寄付金をいただくことが出来た。

以上